

# 2016 年度アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト実施報告

## International Intercultural Mural Exchange [IIME]

ジャパンアートマイル (JAM)

「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」(通称アートマイル)は、海外のパートナー校と文化の違いを超えて共通のテーマについて学び合い、学習の成果として壁画を共同制作する国際協働学習の学習プログラムです。文部科学省と外務省の後援事業として、またユネスコの持続可能な開発のための教育(ESD)のグローバル・アクション・プログラム(GAP)として実施しているアートマイルには、これまでに61の国・地域から1,103校36,864名の児童生徒が参加しています。2016年度は、インタラクティブな(双方向・対話的)学習にポイントを置いて、国際協働学習の質を高めることを目指しました。その成果を報告します。

### 1 国内・海外の参加校

2016年度の「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」には20の国と地域からのべ102校2,957名の児童・生徒・学生が参加しました。

#### 【参加都道府県】15都道府県

北海道、宮城県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、香川県、

#### 【参加国・地域】20の国・地域

アゼルバイジャン、アメリカ、インドネシア、ウガンダ、オーストラリア、カナダ、キルギス、サウジアラビア、ジャマイカ、タイ、台湾、中国、日本、ネパール、パキスタン、フィリピン、フランス、マラウイ、メキシコ、ロシア

#### 【参加校・参加生徒】

参加校数: 延べ102校(日本51校、海外51校)  
参加生徒数: 2,957名(日本1,716名、海外1,241名)

#### 【日本参加校・海外参加校 国・地域別一覧】

NO	国・地域	日本校	海外校
1	Australia オーストラリア	石川県 金沢市立額小学校	Lumen Christi Primary School
2	Azerbaijan アゼルバイジャン	京都府 木津川市立木津南中学校	School Lyceum #220
3	Canada カナダ	石川県 金沢市立小坂小学校	Wyevale Elementary School
4		石川県 金沢市立西小学校	Rothwell-Osnabruck School
5		宮城県 富谷高等学校	Lincoln M. Alexander Secondary School
6	China 中国	石川県 七尾市立小丸山小学校	Jinhua Binhong Primary School
7	France フランス	東京都 武蔵村山市立第三小学校	Emmanuel Cheneau
8		愛知県 東浦町立緒川小学校	Groupe Scolaire Carlepont
9		愛知県 東浦町立藤江小学校	Collège Saint Paul-Rezé
10		兵庫県 Sherry 英語教室	Honore de Balzac
11		石川県 金沢市立四十万小学校	Collège La Loge des Bois
12		静岡県 浜松学院中学校	College St Anatoile
13		岡山県 県立岡山一宮高等学校	Lycée Charles STOESSEL

14	Indonesia インドネシア	東京都 多摩市立東愛宕中学校	SMP Islam Tugasku
15		京都府 京都教育大学附属桃山中学校	SMP Islam Al Azhar 9
16		兵庫県 神戸大学附属中等教育学校	SMA Labschool Cibubur
17	Jamaica ジャマイカ	石川県 七尾市立小丸山小学校	Fruitful Vale Primary School
18		愛知県 県立みあい特別支援学校	Manchester High School
19	Kyrgyzstan キルギス	岐阜県 各務原市立各務原養護学校	SOS Children's Village Bishkek
20		静岡県 浜松学院中学校	Education Center for Children
21	Malawi マラウイ	愛知県 津島市立北小学校	Chitedze L.E.A. Primary School
22	Mexico メキシコ	香川県 三豊市立曾保小学校	Comunidad Educativa Yaxunah
23		東京都 多摩市立南鶴牧小学校	FORMUS
24		石川県 内灘町立向粟崎小学校	Francis Bacon School
25		神奈川県 星槎国際高等学校	Prepa Tec, Campus Cumbres
26		東京都 青山学院大学	Universidad Veracruzana
27	Nepal ネパール	石川県 金沢市立額小学校	Sree Tribuvan Adarusya H.S School Syangja
28		滋賀県 大津市立志賀中学校	Shrawan Secondary School
29	Pakistan パキスタン	宮城県 仙台市立郡山中学校	Springfield Public School & College
30		兵庫県 Sherry 英語教室	Modernage Public School & College (Girls)
31		東京都 都立田柄高等学校	Modernage Public School & College (Boys)
32	Philippines フィリピン	石川県 金沢星稜大学	Mindanao Kokusai Daigaku
33	Russia ロシア	大阪府 追手門学院大手前中学校	Moscow State School 1471
34		石川県 内灘町立向粟崎小学校	Secondary School №19
35	Saudi Arabia サウジアラビア	山形県 尾花沢市立玉野中学校	Al Hussan International School
36	Taiwan 台湾	石川県 金沢市立小坂小学校	Rixin Elementary School
37		兵庫県 赤穂市立有年小学校	Taipei Mandarin Experimental Elementary School
38		石川県 金沢市立四十万小学校	Chiayi Municipal Gang Ping Elementary School
39		石川県 金沢市立西小学校	Wen Ya Elementary School
40		兵庫県 赤穂市立原小学校	Taipei Municipal Ying-Qiao Elementary School
41		愛知県 豊橋中央高等学校	National Shanhua Senior High School
42	Thailand タイ	福井県 坂井市立鳴鹿小学校	Chulalongkorn Univ. Demonstration School
43		石川県 金沢市立小坂小学校	Plearnpasa Language School
44		北海道 市立札幌大通高等学校	Suksasongkro Chiang Mai
45		石川県 金沢大学	Chulalongkorn University
46	Uganda ウガンダ	東京都 小平市立小平第四小学校	Bembehill Primary School
47		愛知県 岡崎市立秦梨小学校	Kasangula Talent School
48		北海道 海星学院高等学校	Iganga Secondary School
49	USA アメリカ	石川県 金沢市立小坂小学校	St Pius X School
50		兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	John Adams Middle School, Santa Monica CA
51		兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Scales Mound Junior High School

## 2 アートマイル国際協働学習

アートマイルは、海外のパートナー校とインターネットを使って「平和」「文化」「環境」などの地球規模のテーマや「命」「将来の夢」など生き方に関するテーマについて想いを伝え合い、世界を良くするために自分たちに何ができるかを考え、世界の人々に訴えるメッセージを込めて壁画を共同制作する7ヶ月間の継続した国際協働学習です。

今、社会で求められている力は、自ら課題を見つけ、決まった答えがない問題を多様な他者と対話的・協働的に解決する力です。

多様な文化背景を持つ同世代と“協働”して共通の課題に取り組み、一つの成果物を“共創”するアートマイルは、これからの時代に必要とされる資質・能力を育てることができる学習プログラムです。

## 3 協働学習の質を高める

### (1) 国際協働学習の5つのステップ

9月に始まり3月に終わる7ヶ月間の国際協働学習には5つのステップがあります。いつ何をするのか大枠が決まっていることで、見通しを持って学習を進めることができます。

本年度は協働学習の質を高めるために、5つのステップの内容を見直し、テーマ学習の後に世界に訴えるメッセージを作成することとしました。



### (2) インタラクティブなやりとりで学習の質を高める

以前は、テーマについてそれぞれが調べたことを共有しただけで絵の構図の相談に入るケースが多々あり、協働学習の深まりに課題がありました。

そこで、2016年度は、協働学習の質を上げるために、「インタラクティブ(双方向・対話的)なやりとり」にポイントを置きました。

テーマについてお互いの状況や考えを理解した上で、自分たちが世界に何を訴えたいのかを一緒に考え、それを言葉にすることに重点を置きました。

相手と一緒に世界に訴えるメッセージを作成するためには、インタラクティブなやりとりが不可欠です。やりとりを重ねる過程で、新たな発見があり、客観的・批判的に考える力が育ちます。異文化理解、自文化理解がさらに深まり、世界で起きていることを自分事として捉えるようになります。

参加校の報告書からは、生徒たちが相手と真剣に意見を交わしたことで、ものの見方や考え方、世界のとらえ方、自分の将来に対する考え方が変わってきたという成果が見られました。

## 4 インタラクティブな協働学習の実践

参加校、相手と1対1でやりとりができるフォーラム(電子掲示板)を使って、5つのステップの流れに沿ってパートナー校と協働学習を進めました。

### [9月] 出会い: 自己紹介



協働学習は自己紹介からスタートします。自己紹介カードや写真だけでなく、動画を作成してフォーラムにアップしたり、スカイプで直接顔を見て話をしたり、相手との繋がり感が強まるような工夫をしていました。

## [10月] 共有:テーマ学習



相手と相談して自分たちのテーマを決めます。テーマには「平和」「文化」「環境」「共生」「未来」などがあり、それぞれが学習したことや考えたことをフォーラムにアップして共有しました。紙にまとめたり、絵で表現したり、パワーポイントを作成したりと自分たちの思いが相手に届くような工夫が多くありました。自分たちがまとめたことを動画にしてシェアしたり、スカイプで発表したりするところもありました。

JAMからは、テーマについて自分たちのことを伝えたら相手に感想や意見をもらうように、相手がアップしたら感想や意見を返すようにと助言しました。相手のことを知ることで発見や疑問が生まれ、新たな視点で考えることができます。インタラクティブなやりとりで学びを深める取組が増えました。

## [11月] 融合:想いを合わせてメッセージ作成



本年度からテーマについてお互いの考えを理解した上で、自分たちが世界に訴えたいことを一緒に考え、それを言葉にしてメッセージを作成することとしました。ここで相手と言葉を作ることができたところは、生徒自身が充実感を感じられる学習になりました。

た。一方、自分たちが発信したいメッセージを作ることではできても、相手と一緒にメッセージを作ることが難しいところがありました。一番の原因は、自己紹介に時間をかけ過ぎて時間が足りなくなったことにありました。

メッセージを決めたら、その想いをどのような絵に表すのかを相手と相談して決めます。描く内容、絵の構図、どう分担するのかについて、先に絵を描く日本側から提案して、海外側をリードしていました。

## [12月~2月] 創造:壁画制作



日本側が12月にキャンパスの半分に描いて海外校に送り、海外側が1月~2月に後の半分を描いて壁画を完成させました。壁画はこれまで重ねてきた学習のアウトプットです。世界に訴えたいメッセージが明確なところ、相手との絆が強いところは、見るものに思いが伝わる壁画ができました。

## [3月] 評価:振り返りと評価



海外校から戻ってきた完成壁画を鑑賞し、学習全体を振り返って自己評価をして、7ヶ月の学習を終えます。3月は学年末ということもあり、振り返りと、

自己評価が十分にできなかつたところがかかりあり  
ました。自己評価は自己成長に直結します。どの  
時点でどのような評価をするのか課題が残りました。

## 5 成果

### (1)アートマイルで育つ力

今年度は協働学習に質を深めることを目指して  
学習の中身を見直し、双方向の協働学習に力を入  
れたことで、以下の力が育ったと思われます。

- ① 異文化を理解する力
- ② 批判的に思考する力
- ③ 主体的に考え行動する力
- ④ 多様な他者と協働する力
- ⑤ 想いを言葉や形にする力

### (2)深い学びが実現した事例

インタラクティブな協働学習で学びを深めた事例  
を紹介します。生徒と教師の言葉から、生徒も教師  
も意識が大きく変わり、深い学びになったことが分  
かりました。

#### (A)日本×ネパール「平和な世界」

滋賀県大津市立志賀中学校ではネパールの  
Shrawan Secondary School と「平和な世界をつくる  
ために」というテーマで学習しました。日本側は平  
和について考える手立てとして、社会の先生の協  
力を得て「憲法9条」を勉強し、英語の先生の協力  
を得て「憲法9条」を英訳してネパールの生徒たち  
と共有して、憲法改正の是非を議論しました。

テーマ:平和な世界をつくるために

*Which future does our decision lead to?*

*What can we do?*

私たちの決断が導く未来は(平和な未来か戦争の  
未来か)どちら? 私たちに何ができる?



<生徒の意識の変化(生徒の言葉)>

○中学生男子の憧れの職業がインドの外人部隊の

兵隊ということに衝撃を受けた。

○他の国は平和についてどのような考えを持って  
いるのだろうかと考えるようになりました。日本人は  
もっと自分の国と他の国との関係について考えた  
方が良いと思いました。日本の政治についてももっ  
と考えていかないとダメだなと思いました。

<教師の意識の変化(教師の言葉)>

「憲法9条」改正の是非についてグループで議  
論したところ、中学生でもかなり深く考えることが  
できるということに気づき、怖がらずに色々なことに  
チャレンジさせることが大切だと感じました。

今回は様々な工夫をして双方向の学習を進めま  
したが、生徒の意識が変わり、成長している姿を見  
て、この取組の奥深さと可能性について実感するこ  
とができました。

#### (B)日本×パキスタン「伝統と平和」

兵庫県赤穂市の中高生とパキスタンの女子校生  
は伝統文化を平和の視点で捉えて学習しました。

テーマ:平和への祈りー破壊から希望へー

*Pray for Peace -Traditional festivals inherited  
in the peaceful societies -*

伝統的な祭りは生の喜び、感謝、祈りであり、平和な  
社会で受け継がれる。世界が平和でありますように!



<生徒の意識の変化(生徒の言葉)>

○世界にはテロや紛争、貧困に苦しんでいる国が  
たくさんあって、ずっと何か手助けになることはない  
かと考えていました。でも、フォーラムやテレビ会議  
を通して、パキスタンの相手から自国を愛している  
想いと、先入観にとらわれずに本当の私たちを見  
て欲しいという気持ちが伝わりました。自分自身の  
世界の見方が変わった気がします。

○パキスタンは発展途上国で、イスラム教の国で、  
少し怖いという印象があったけれど、実際はすごく  
明るい人がたくさんいて、良いところがある素敵  
な国だと思うようになりました。相手の人達は私以上

に自分の国の将来のことを考えていてすごく尊敬できると思いました。そんな人達がもっと良い環境で命の危険を感じることなく勉強できるようになればいいのと思いました。

○相手の国は現実にたくさんの課題を抱えている。日本人は毎日をテロや戦争の不安と共に過ごしていないが、パキスタンはその国でも隣国でもテロ組織が存在して、実際にテロも起きている。僕たちはそんな環境にないからそのありがたさに気付かない。僕たちはこの交流を通してこのことを学んだ。これからどんどんグローバル化が進んでいく中で、本当のことを知っているか否かで、世界の人々と良い関係が作れるかどうか分かれるのではないかと思った。

### <教師の意識の変化(教師の言葉)>

今回は絵を描く前に世界に発信したいメッセージを明確な言葉にすることにこだわりました。そのこだわりの「破壊と平和」について相手と議論を深めることにつながり、その成果が作品に表れていると思います。少しレベルが高いかなと思うくらいの設定をして、それでもやってくれと生徒を信じるのが大事だということを学ばせてもらいました。

日本の生徒は、自分がパキスタンの生徒と心が通じ合い、信頼関係を持てるとは以前は考えたこともなかったと思います。文化背景が全く異なる世界の人と理解し合うことができたという経験が、将来世界の人々と信頼関係を築きながら世界をより良くするために一緒に仕事をする土台になると思います。

## 6 課題と展望

### (1)課題

2016年度は、協働学習の質を高めるために、インタラクティブなやりとりを重視し、世界に発信するメッセージ作成を学習項目に入れました。しかし、どちらも容易なことではなく、課題が残りました。

インタラクティブなやりとりができていれば学習が深まります。しかし、自分たちのことを伝えるだけで、双方のやりとりが希薄なまま次の学習段階に進むところがいくつかありました。文化背景が異なる相手と外国語の英語でやりとりをするのは日本の教師にとって負担が大きいのは事実です。しかし、これを克服してすばらしい協働学習を実践しているところ

に共通しているのは、英語力ではなく目的意識とマネジメント力です。

メッセージ作成については、世界の人々伝えたい思いではなく、パートナーに伝えたいことをメッセージにしているところがかなりありました。パートナーに向けてメッセージを作るときには相手と話し合いがなくても作れますが、相手と一緒に世界に向けたメッセージを作るためには、自分たちはどう世界を望んでいるのかといったことを相手と話しなければなりません。これができなかった一番の原因は、最初の自己紹介に時間をかけ過ぎて、テーマ学習の共有が精一杯となり、そこからもう一段階学習を深めて世界に訴える話をする時間が無くなったことにありました。

限られた授業数の中で相手とインタラクティブな学習をするためには、いつ何をするのか見通しを持って授業計画を立て、膨らませるところ、省くところのメリハリを付けて授業を進めるマネジメント力が求められます。

### (2)展望

今年3月にカナダで開催されたユネスコの持続可能な開発のための教育(ESD)・地球市民教育(GCED)に関する世界会議UNESCO Weekに参加しました。国連が進めている持続可能な開発目標(SDGs)の達成には教育の役割が大きく、「教育を変革」するためには「教師の変革」が必要であり、それをどう実現するかが大きな議論となりました。

教師には、明日の日本人、世界の未来を創る地球市民を育てているという自覚と、自らが世界と向き合って協働する覚悟が求められています。

アートマイルは、子どもたちが世界と出会い、世界の仲間と想いを伝え合い、ゼロから新しいものを“共創”するユニークな国際協働学習です。

今後は、アートマイル国際協働学習を持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた学習と位置付け、ESD・GCEDの観点から地球市民を育てる国際協働学習として進めてまいります。